

大分教育事務所管内 実践事例集

本事例集は、令和5年度大分教育事務所管内の学校訪問等で見られた好事例を紹介をしています。

ぜひ、それぞれの学校や教育委員会でご活用いただければと思います。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】大分市立大在西小学校

学校教育目標の実現に向けた組織的な取組

学校の教育目標を実現するための取組内容や取組方法、取組期間を「見える化」

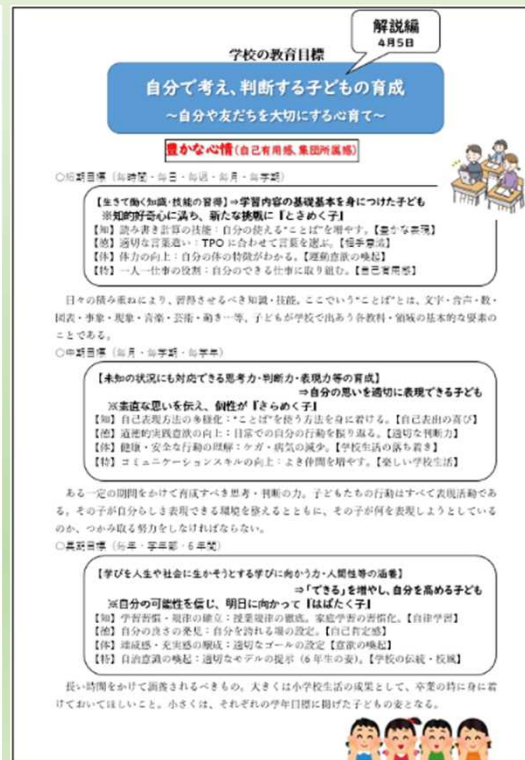
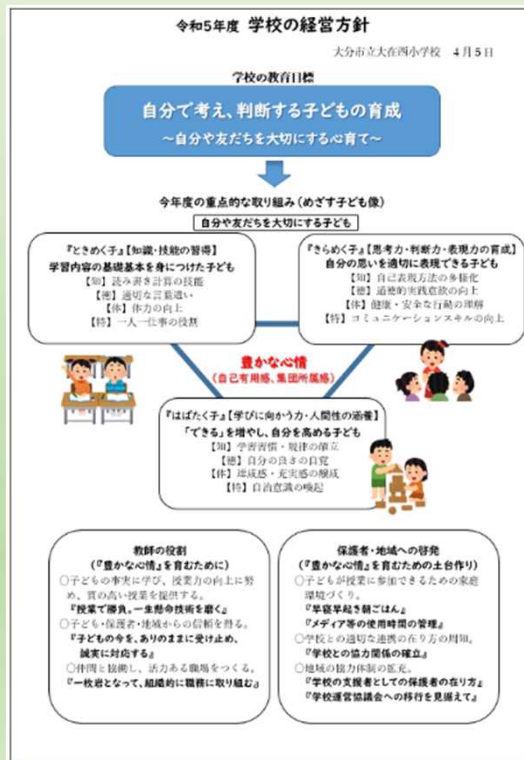
Point 1

取組期間(短期で習得、中期で育成、長期で涵養)などを分かりやすく示している点

Point 2

先生方一人ひとりにとって、いつ頃、何を、どの程度すべきかが明確になっている点

その取組が学校経営の重点(資質・能力)にどう関わっているかを同色で明示しています。先生方の意識も、自分たちの取り組みが学校教育目標の達成に連動しているという実感につながっています。



2023.5.1 校長
学校教育目標の実現に向けて
自分で考え、判断する子どもの育成
～自分や友だちを大切に育て～

【未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成】
『自分の思いを適切に表現できる子ども』
※素直な思いを伝え、創性が『はばたく子』

部会	実現の3つのステージ(各ステージの終わりに児童・保護者アンケートを実施)		
	1. ルール作りと覚悟(1学期) 5月	2. 活用(2学期) 7月 9月 11月	3. 振り返り(3学期) 1月 2月
学習内容の基礎基本を身につけた子ども 知的好奇心に満ち、 新たな挑戦に『ときめく子』	学びの土台となる基礎づくり(学力向上)	授業改善(校内研修)	・算数の单元テスト(知・技)の平均が85点以上。(前)
自分の思いを適切に表現できる子ども 素直な思いを伝え、 個性が『きらめく子』	発表活動の推進、ICTの活用促進	課題別学習(家庭との連携)	・授業が楽しいと感じた児童 88%
『できる』を増やし、 自分を高める子ども 自分の可能性を信じ、 明日に向かって『はばたく子』	メディアに触れる情報の取扱い(ネットモラル)	生活の約束の徹底(あいさつ)	・読書検定、ICT使用回数(前年より増えた児童) 85%(前)
	子どもの運動意欲の喚起(授業・行事等)		・読書検定の満足度(楽しい)を感じた児童 90%
	風土的人情関係(早稲・早稲き・新こはん)の確立		・体育や部活動の満足度(楽しい)を感じた児童 90%
	健康・安全に関する指導(健康・安全教育)		・学習・早起き・朝ごはんの満足度 90%
	魅力的な学校行事の企画・実行		・毎日の振り返りから自己有用感(役の)を感じた児童 90%
	係・委員会活動の自主的活性化		
	人間関係作りプログラムの実施によるコミュニケーションスキル獲得		

○学校の新しい目標に達成した児童 85%
○まだ達成できていない児童 95%

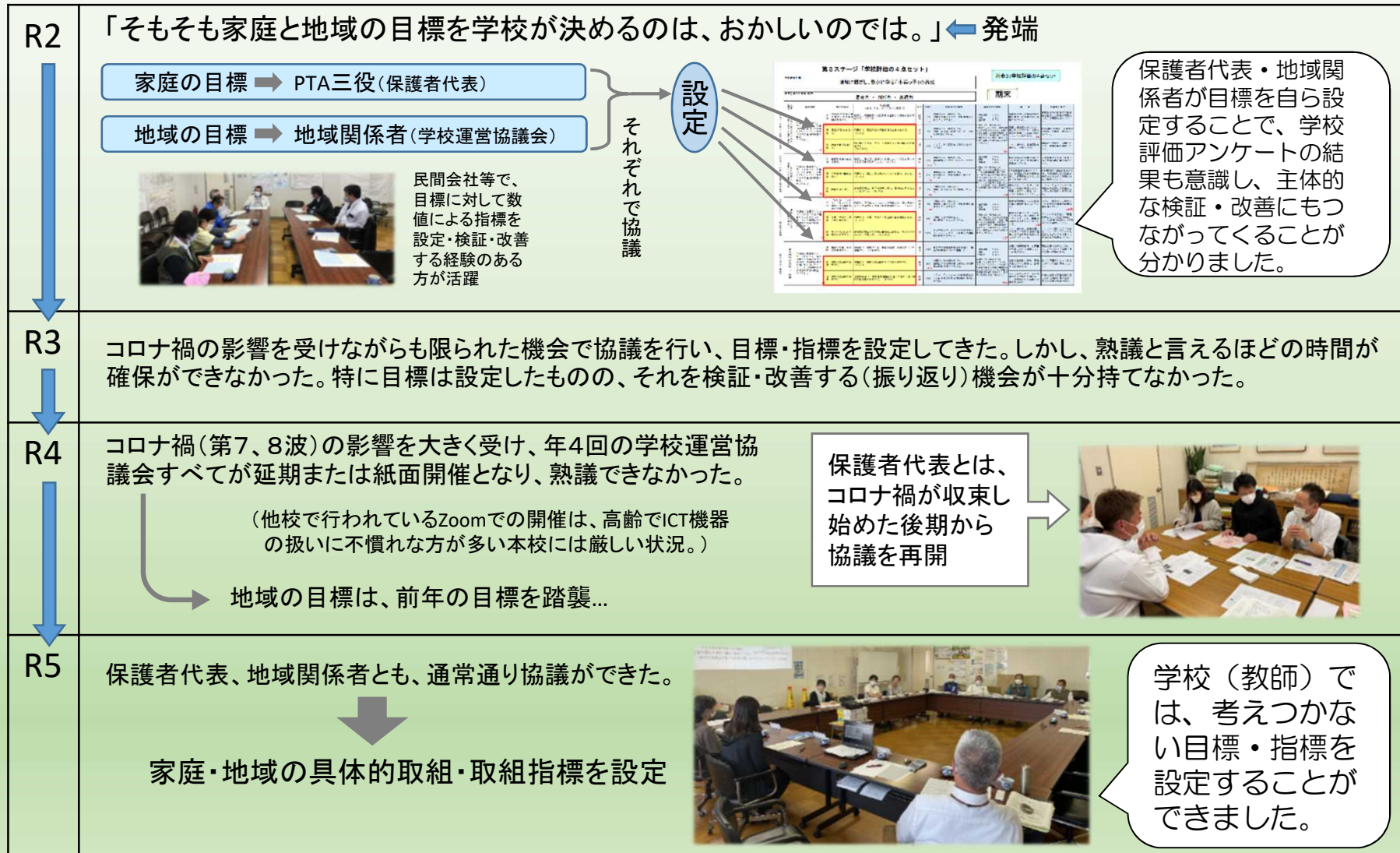
実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】 臼杵市立市浜小学校

学校・家庭・地域の協働の実践

学校評価4点セットにおいて、保護者代表・地域関係者が自ら目標設定し、主体的に学校運営に参画する取組への変遷



実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

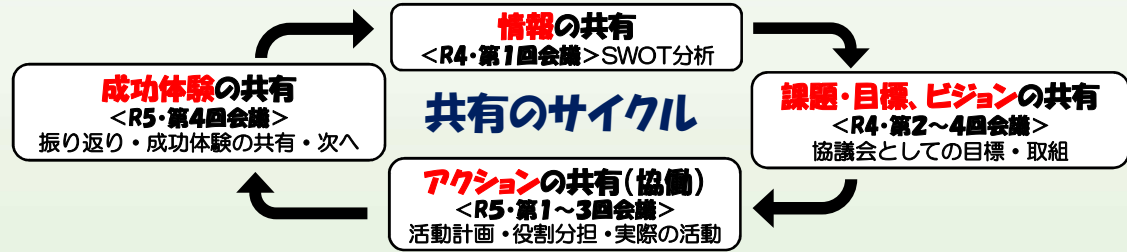
【事例】 由布市立川西小学校

地域とともにある学校づくり

「熟議&協働」による小規模特認校の取組

Point

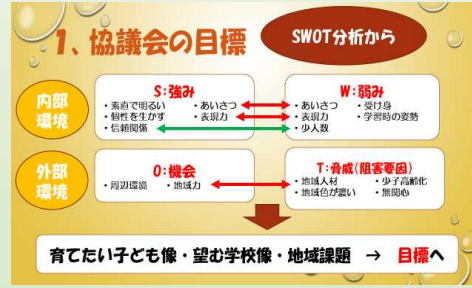
協働の好循環を生み出すツール『共有のサイクル』を機能させ、地域学校協働活動を推進している点



R4

「情報の共有」 第1回学校運営協議会

『共有のサイクル』を示し、段階を踏みながら会を運営していくことを説明。現状把握のためにSWOT分析を行い、全体の場で気付きを出し合う中で「学校や地域、保護者の強み・弱み」が見えてきた。「学校の存続」が、児童・保護者・地域住民・教職員など、皆の願いであることを確認した。



「課題、目標の共有」 第2~4回学校運営協議会

3回の協議会で委員が様々な意見交流をする中で、『小規模特認校としての魅力・特色を明確にすること(特色ある教育内容の工夫・実施可能な体制づくり)』を目標に設定。会議では「歴史ある本校の良さを生かす」「自然豊かな地でのびのびと育てほしい」「今いる子どもも楽しめるような取組をしたい」「魅力ある通わせたい学校とは何か」など、各委員の思いを十分に聞くことができた。



目標が定まったことで、何を協議し、どこを目指せばよいのかが明確になりました。

R5

「アクションの共有」 第1~3回学校運営協議会

特色ある学校づくりのヒント探し(6月ふれあい集会)ドキュメンタリー映画「夢みる小学校」視聴
試写会には約20名、本番には約50名が参加し、感想や意見を付箋紙に書き残した。



<映画に関するコメント(集約)>

分類	コメント(人数)
よかった所	・子どもの自由や自主性を大切に(13) ・きちんと質問ができる子どもたち ・体験活動(木工・飼育栽培・達人) ・頑張らなくていい、自分のままでいい
川西小でもできそう	・体験学習の充実(10) ・自分たちで作ってみたい(7) ・子どもが考え、企画し、楽しむ(5) ・「間」を生む力・考える力(4) ・夢中になれることを見つける・手助けする(3) ・まちがっていい、ここにいていいという安心感。一人ひとりに寄り添うこと
難しい所	・活動(小屋や遊具の制作、動物の飼育) ・学校の現実には合わない(目標・持続性) ・カリキュラムの問題
感想・疑問	・自分の意見をしっかりと伝えてほしい ・もっと子ども主体の行事を! ・好きなこともいいけど、まずは勉強を

<子どもたちの思い>

・自分たちでやってみたいな(活動・協議)

<大人たちの思い>

・子どもにもっと自由と自主性を
・企画・行動・失敗の経験も大切

【学校ができること】

・総合的な学習の時間の見直し(課題・内容・持続性)
・子どもの自主性を育む場づくり
(子ども主体:全校会議・クラブ活動・全校遊び・運動会)

【学校運営協議会ができること】

・体験活動や総合的な学習の時間への協力
・モノづくりやお祭り等の企画・運営

「川西っ子祭り」

(段ボールを使った工作活動)



「成功体験の共有」 第4回学校運営協議会

協働することで実効性のある協議会へと成長し、成功体験を共有することで各自のモチベーションが高まり持続性のある協議会へと成長した。

来年度の教育課程や年間行事、学校運営協議会などの基盤を築くことができました。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】 由布市立谷小学校

学校・家庭・地域との連携

基礎・基本的学習内容の定着に
向けた家庭との協力

Point

保護者会で理解と協力をお願いし、取組を依頼した点

普段より、学校・家庭・地域との「協働」を推進しています。

4点セット整理票(一部抜粋)

重点目標	重点的取組	取組指標
子どもの育感を高める	家庭 ○目標を持って取り組む意識の向上	○保護者は、子どもと話し合って家庭学習の目標などを決め、学期に1回子どもと振り返り、生活シートに記入する。 ○家庭学習の「認め」の意義やその実施を保護者に呼びかける。
子どもの育感を高める	家庭 ○家庭内での対話の進め	○保護者は、単語での指示ではなく2往復会話による対話を心がける。
子どもの育感を高める	地域 ○総合的な学習の時間や生活科を中心とした「由布学」への参加	○学校運営協議会学習支援部は、谷むらづくり協議会を通して、学期に2回以上、「由布学」への参加を計画し、ゲストティーチャーを派遣する。
子どもの育感を高める	家庭 ○親子ふれあい活動の実施	○各家庭は家庭に合ったふれあいの形を考え実施し、学級懇談の時に交流する。 ○保護者はキャリアノートを活用し、毎学期を振り返る。
子どもの育感を高める	地域 ○安全確保とあいさつ交流	○谷むらづくり協議会による毎朝の登校指導を計画・実施する。 ○生活指導担当者は、集会等で挨拶についての呼びかけを行う
子どもの育感を高める	家庭 ○学校の負担軽減を目指した活動の実施	○保護者は学期に1回以上、メール配信でのアンケート調査へ協力する ○学校通信・学年通信・タブレットによる組織的な連携
子どもの育感を高める	地域 ○校務の効率化と実態の共通理解	○谷むらづくり協議会は各教科や由布学に関する栽培分野の畑や田んぼの管理を行う。 ○谷むらづくり協議会は学校行事に合わせ、校内環境整備作業を実施する。



正しく読むことは、すべての学習の基本です😊

効果的な音読練習について、教員が作成したマンガをもとに寸劇も交えながら説明し、言語量獲得の重要性を含めた理解と協力をお願いしました。



提子井路の学習



稲刈り体験



看板づくり



芋植え～芋掘り



親子陶芸教室



グランドゴルフ体験

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】津久見市立千怒小学校

家庭との連携

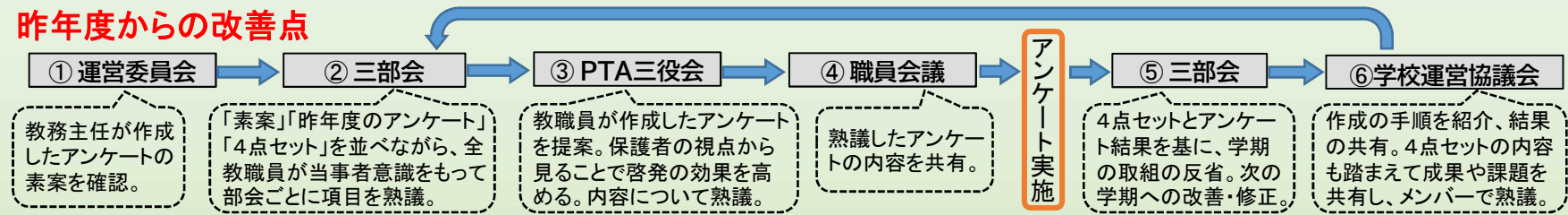
学校評価アンケートの活用

■ Point 保護者が「学校の教育目標・教育活動・家庭での子どもとの関わり」を「自分事」として捉え、当事者意識をもつことができるようにした点。

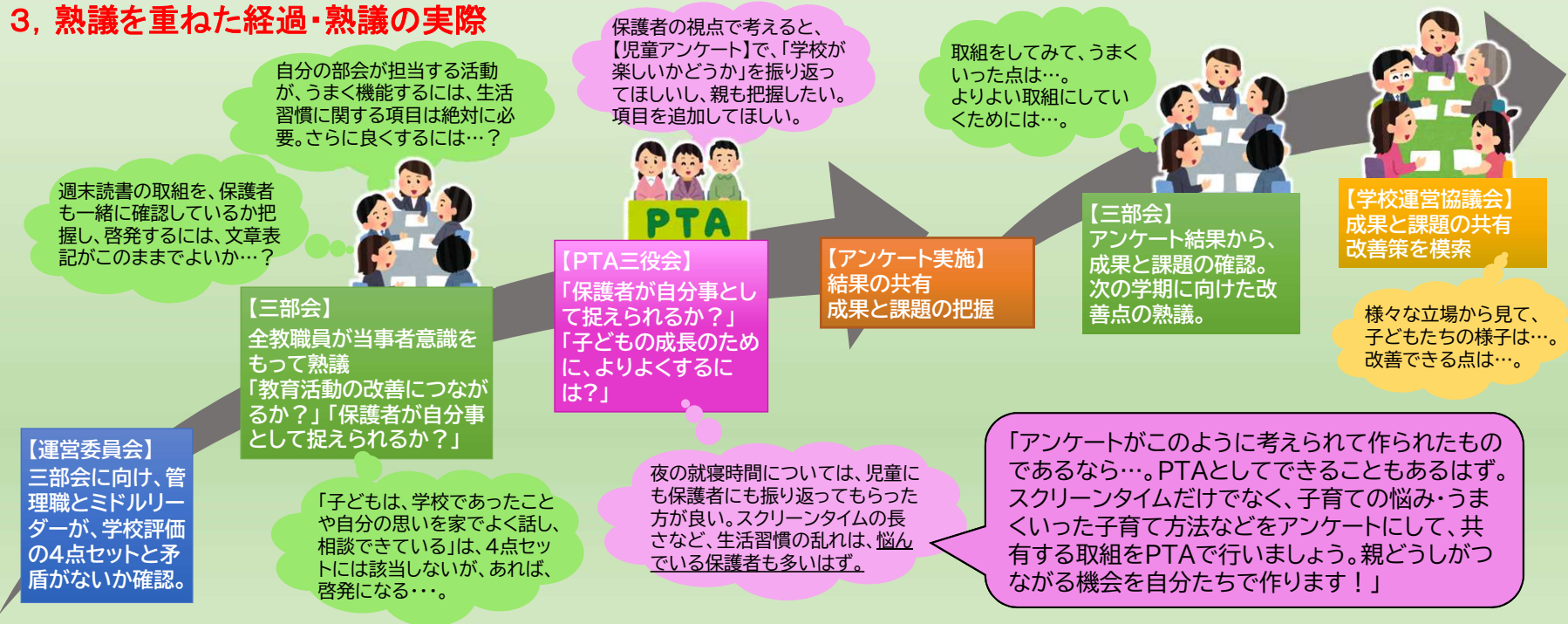
1, 学校評価アンケートに込めた職員の願い

- ①学校評価の4点セットに関わる項目・児童や保護者の思いや様子を把握し、評価・改善に役立てる。
- ②児童アンケートについては、児童一人ひとりの様子を把握し、指導に生かせるようにする。
- ③保護者アンケートは、保護者の思いを把握するだけでなく、学校の教育目標・教育活動・家庭での子どもとの関わりについて自分事として捉える機会(啓発)になるようにする。

2, 昨年度からの改善点



3, 熟議を重ねた経過・熟議の実際



実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】臼杵市立福良ヶ丘小学校

働き方改革の推進

働き方改革を推進するための組織マネジメント図を作成

Point 1

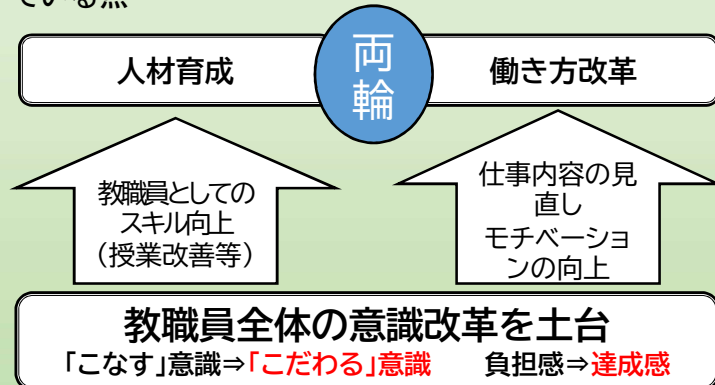
昨年度までの現状を出し合い、全職員が当事者意識をもって取り組めるようにした点

Point 2

「こだわる」からこそ「達成感」につながるという意識を土台として大切にしている点

Point 3

「働き方改革」と「人材育成」を『両輪』として取組を進めている点



実際に、若い先生方が教務主任等のミドルリーダーとして、管理職のリーダーシップのもとで活躍をしていました。

さらに、今後の働き方改革を推進するための方向性も示されていました。

<働き方改革推進の成果>

<目標達成マネジメント>

本校の教育課題を明確化、課題解決に向け、「どんな力をつけるのか」「めざすことも像」のゴール(目的)を共通理解を図る。



<組織マネジメント>

課題解決のゴールを目指すために、「誰が、何を、どう進めていくのか」、組織体系の見直しを図る。



職員全員が目的意識・意図を持って、課題解決に向かう体制(集団)が整った。

【1学期末教職員アンケート「働き方改革」に関する項目の結果】

運営委員会、三部会は、業務の効率化につながっている。肯定100%
 運営委員会、三部会は、取組の内容の共通理解や資質能力の向上につながっている。肯定100%
 地域・保護者とつながり合うために、創造的な取り組みを立案、実施できた。肯定100%

職員の姿勢の変化

「新たな取り組みの立案は難しいけど、わくわくします。」
 「失敗するかもしれないけど、まずはやってみよう。」
 「活動の意義を持って臨んでいるので、負担は感じない。」
 「活動が重ならないように、活動時期を見直していこう。」

「こだわる」意識へ 疲労感から達成感へ

人材育成・働き方改革につながる

学校評価の4点セットの浸透で、職員全員が目的意識と意図を持って、課題解決に向かう体制が整ったことは、職員の意識改革へとつながった。課題解決という目的を明確にしたことと、ベテラン職員が支える体制と相談できる職員の関係を築けたことは、若手職員の意識の転換、能力の向上の結果となった。
 このように、目標達成の道筋を示す目標達成マネジメントを土台とし、組織マネジメントの見直しを図ったことが、人材育成にもつながった。

【組織マネジメント】 教職員全体の意識改革

「こだわる」意識・達成感へ向く
人材育成の観点では一定の成果

- 業務時間の確保の取組**
- ◎職朝廃止 … 毎週水曜日の校内研修、職員会議の前に職朝に変わる連絡会(15分間)を持つ。
 - ◎電光掲示板の設置 … 2日分の行事予定・出張等を掲示。
 - ◎情報の一元化 … 行事予定、出張予定、日程、出欠、成績管理等の情報をTコンパスに集約。
- 業務内容の精選の取組**
- ◎業務内容の精選と見直し … 登校指導を下校指導へ、行事内容の見直し・三部会連動
 - ◎学級通信の発行 … 2週間に1回発行へ
 - ◎運営委員会…見直しを持つことで、業務負担の軽減おう

実質的な業務量を減らすまでには至っていない。

↓
次の段階として【実質的業務量の削減】を目指す

- ↓
- ①職員全体で業務内容を見つめ直す
 - ②職員(一人ひとり)が、業務内容の軽減のための改善案を出し合う。
 - ③学校全体での改善を図る業務内容と個人個人で改善を図る内容を共通理解し、実施する。

↓
現状の業務量の20%程度の削減及び内容見直しにつなげる。

実践事例の紹介

学校マネジメントの深化

【事例】臼杵市立東中学校

働き方改革の推進

勤務実態改善計画を図式化

■ Point 1 先生方が取り組むべき内容が視覚的に捉えやすい点。

■ Point 2 勤務実態について、数値で振り返ることができる点。

目標： 1. 心身ともに支障がなく、エネルギーを持って職務遂行にあたるとともに、家庭生活を充実させることができる。
2. 校務の効率化・個と組織の役割の最適化を図ることで、労働生産性（生産効率）を高めることができる（子どもや授業に係るエネルギーや時間を確保するため、その他の校務を整理し、手際よく処理することができる）。



作成することが目的ではなく、「いかに活用するか」を想定し、「実際に改善すること」を意識しています。

学校マネジメントの深化

【事例】大分市立三佐小学校

働き方改革の推進

ワークライフバランスの実現に向けた取組

■ Point

先生方の前向きな気持ちを引き出すことができるため、働き方の「意識改革」のきっかけとして受け入れやすい点。

勤務時間の削減ばかりを迫ると反発する気持ちが出てきてしまうため、自分の大切にしたい時間を積極的に挙げ、「その時間を生み出すために何ができるか」を考えて実行するという自発的な取組につなげています。

【例1】氏名（三佐 心桜）

（ワークライフバランスの実現に向けた私の取組）

1. 毎日家族と一緒に夕食を食べ、会話をする。
2. 趣味のパン作りに取り組み、腕を上げる。
3. 週末は、我が子とたくさん触れ合う。

内容は自由で、
楽しみたいことや
やってみたいこと
を記入します。

（勤務時間に係る自己目標）

1. 休憩時間には休憩をする。放課後の15分休憩時には、職員室でコーヒブレイクをする。

【例2】氏名（三佐 陽翔）

（ワークライフバランスの実現に向けた私の取組）

1. ジムに通い、今年も自分磨きに取り組む。
2. 寝食の時間を削らない。
3. 好きなアーティストのYouTubeを見る。

簡単な事からでも
よいので、先生方の
自主性を大切にしながら
各自で目標設定
をします。

（勤務時間に係る自己目標）

1. 月、金曜日は18時までには退勤する。水曜日は毎週定時退勤する。火、木曜日は残業デーとし、18:30を過ぎそうな場合には、教頭先生に申告する。



『誰もが笑顔で元気に働ける三佐小の職場づくりとワークライフバランスの実現(2年次)』(抜粋)

- 会議・行事の精選・公務の効率化に向けて
- 時間外勤務実態把握に向けて
- 全市一斉定時退庁日を厳守
- 年次有給休暇の取得促進に向けて
- 校内労働安全衛生委員会の開催
- 校務の効率化、合理化

◎長時間勤務の改善

- ・ノー残業デーの取組
- ・本校の目標周知と残業デーの申告
- ・可視化による自己改善の実施
(行事予定表・ホワイトボードへの明記等)
- ・教職員1人1人の働き方の把握
- ・行政、その他関係機関との連携
(SC、SSWの積極的な活用他)

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】由布市立挾間中学校

校内研究

主体的・協働的に課題を探求し続ける生徒の育成

Point

校内研究の2つの取組を整理・可視化し、共通認識しながら教職員全員で取り組んでいる点

教師の「授業の質」を向上する

取組①【「つなげる」学習指導】

- ① 既習事項や既存の知識を、「つなげる」
- ② 協働(対話)的な学習のなかで自分の考えと相手の考えを、「つなげる」
- ③ 本時の学習と次時(今後)の学習を、「つなげる」
- ④ 他教科や日常(社会)生活と、「つなげる」

「つなげる」指導を取り入れた授業改善を行なっています。

問題解決能力の育成

☆教育目標の達成☆

学力の向上

授業づくりの視点

教師がゴールの姿をイメージし、どんな生徒の「振り返り」になるか予想しながら授業を行い、授業改善につなげています。

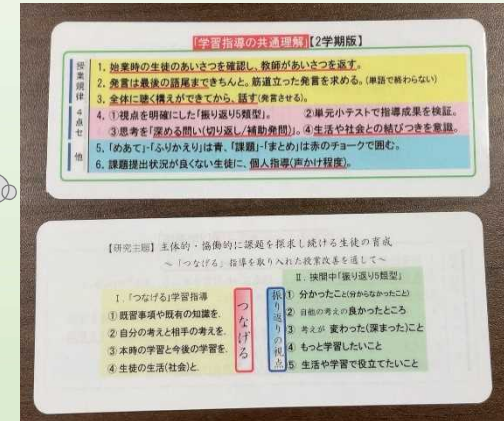
取組②【挾間中「振り返り」5類型】

何についてふりかえるか	観点	何が得られるのか
① 分かったこと(分からなかったこと)	[知・技]	⇒学びの「自覚」
② 自分や友だちの考えの 良かったところ	[思判表]	⇒学びの「良さの発見」
③ 自分の考えが 変わったり深まったりしたこと	[思判表]	⇒自身の「変容の気づき」
④ もっと学習したいこと	[思判表]	⇒今後の「学びへの展望」
⑤ 生活や学習で役立てたいこと	[主学態]	⇒概念化/技能化への「意欲」

学びの見取りの視点

生徒の「学びの質」を向上する

先生たちがいつでも確認しやすいように、カードに要点をまとめ配布しています。



取組の「深化」と「汎化」

◇「学習指導共通理解」の設定

【1学期版】

○机シートに入れたりして、日常的に見るようにしている
教員が多い。



【2学期版】

○2学期版は内容の見直しをして、裏面に「校内研」の取組1と取組2を記載した。
○10/6金全校集会で、生徒と共有し、ともに授業を創る契機とする。

「みんなでやっぺいこう！」という雰囲気です。

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】大分市立鶴崎小学校

校内研修

「授業改善」と「人材育成」を効果的に推進

Point 1

行った授業の実際を、分かりやすく実践に即して具体的に紹介している点。

Point 2

どのように指導したのかではなく、「子どもの様子」として教師の意図したものがどのように見とれたかに着目している点。

「明日に役立つ〇〇研修会」と銘打って、ベテランの先生方が講師になり、指導のコツ等を伝え合う取組も行っています。

教師の手立てにより子どもがどう変容したかを具体的に示しています。

子どもの様子を、数値も織り交ぜながら具体的に示しています。

○取組の一例：実践紹介カード

教科（単元）	5年 算数 合同と三角形、四角形
活用したもの	マイボード・タブレット・その他（ ）
教師の意図（目的）	問題「五角形の角の大きさの和を工夫して求めよう。」の問題場面を把握し、自分の考えを図や式、言葉などを使って説明させるため。
子どもの様子	ノートに自分の考えを書き（5分）、マイボードに図や説明を書く（3分）。次に、全体で発表させながら、板書に位置付けていった。最初の自分の考えを聞くと、①720°が7人、②540°が7人、③分からないが2人だった。①は、三角形の角の大きさの和が180°、四角形は180°×2=360°だから、五角形は四角形の2倍と考えて360°×2=720°という誤答であるが、はじめは半数の児童がこの考えに賛成していた。その後、近くの人と考えを交流すると、①720°が3人、②540°が13人、③分からないが0人変わった。B児とC児が図で示すことで、②の540°が正しいと気づいた児童が多かった。さらに、全体で場どちらが正しいのか考えを出し合い、深めていった。別の児童にも考えを説明させ、たしていく角を色分けしてしていった。「三角形の角の大きさは180°、四角形の角の大きさの和は360°」という既習事項を確かめながら、五角形は三角形が3つできるので180°×3=540°、五角形は三角形と四角形ができるので、180°+360°=540°という考えに納得し、全員が②540°という答えにたどり着くことができた。
成果と課題	◇マイボードに図を書いて説明できるので、近くの人や全体で考えを共有することができた。 ◆図や式、言葉を全て入れると字が小さくなるため、黒板に貼ると見えにくい。
授業の実際（板書写真など）	<p>(友だちの考え)</p> <p>(Aさん) 720° 7+3, 0</p> <p>(Bさん) 540° 7+13, 15, 2, 0</p> <p>(Cさん)</p>

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】津久見市立青江小学校

「算数科 授業実践シート」を
活用した授業づくり

「算数で身に付ける力」を共通理解

Point 1

研修部を中心として、学校全体で「新大分スタンダード」に沿った主体的、対話的で深い学びを実現する算数の授業実践を目指している点

Point 2

ホワイトボードミーティングで子どもたちの現状や課題を出し合い、算数を通して子どもに身に付けさせたい力を考え、共通理解している点

Point 3

- ・教職員アンケートにおける活用率100%
- ・提案授業、互見授業実施率100%
- ・OJTとしても機能



2023 算数科 授業実践シート				青江小研修部	
○新大分スタンダードに沿った主体的、対話的で深い学びを実現する算数の授業実践をめざした授業実践シートです。まず、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」が位置付いた授業作りをめざします。					
実施日	2023.6.14	学級	1年	授業者	〇〇 〇〇
I 単元について					
単元名	ぜんぶでいくつ				
単元でつきたい力	加法の意味（増加・合併）について理解し、1位数+1位数で繰り上がりのない加法の計算ができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力。				
II 授業について					
題目	たしざんのお話を作ってブロックや図で表そう。	時数	5 / 8	時間	
ねらい	増加と合併の意味の違いを、ブロックを操作することや、式・言葉を書くことなどを通してとらえ、図に矢印を書くことで表せるようにする。				
評価規準	増加と合併の場面について、その違いがわかるように図や言葉をかいている。 (思考・判断・表現)【 ノート 】				
III 授業の展開について ◎評価及び★0層の子どもへの具体的な支援を位置づける。					
展開	指導及び指導上の留意点				
導入	2枚の絵を見せて、お話を作ることを伝える。				
めあて	おはなしを ずであらわそう。				
問題 (既習事項とのちがいが)	4 + 2 = 6 になる、増加と合併の両方のお話が提示されている。「あわせて」「ふえる」と「もちろ」となどの言葉に注目させ、既習の増加と合併のそれぞれの場面を想起させる。				
見通し	★2つの場面をを図に表したヒントカードを用意する。矢印だけ記入させる。				
課題	おはなしをずであらわずと、やじるしはどのようにあらわせばよいか。				
まとめ	ふえるときは+、あわせるときは++とかく。				
確かめ	場面を変えた増加と合併の問題を提示し、図に矢印を入れる。(ワークシート)				
振り返り	図に矢印をかくと、「ふえる」と「あわせる」のちがいがわかった。				
IV 考察 *授業の板書の写真を添付する。					
①問題をイメージすることができていたか。(そうするための手立ては有効だったか)					
②問題解決の見通しを共有し、全員が自力解決にのぞむことができたか。					
③自力解決の際に、数学的な表現（絵や図、数直線等）で考えを持つことができていたか。					
④確かめ問題では、全員の「分かった」につながったか。					
○改善点					

単元全体を見通した「つきたい力」

ねらいと評価規準の整合性

困りのある子への具体的支援

「めあて」「課題」「まとめ」「ふりかえり」が位置付けられる授業展開

授業者、互見者の考察や改善点を交流

実践事例の紹介

授業改善（人材育成）

【事例】大分市立小佐井小学校

若手教職員の指導力向上

U-30 計画

- Point 1 意図的に時間を設定して集まることで、習慣化されている点。
- Point 2 負担にならないよう短時間で行い、若手も積極的に参加できる点。



若手教職員研修（U-30）計画 二学期 2023. 10. 19 ○○

目的：若手の指導力向上や日頃の悩み相談

メンバー：○○・○○・○○・○○・○○・○○・○○・○○・○○ + 希望者

サポーター：○○（研究主任）

場所：4年1組 教室

研修日：金曜日 15：45～ 30分程度

授業観察をしたい方は日時・時間・クラス・教科を決めます

若手の先生方が学びたいことを中心に金曜日の放課後（国語の授業の流し方・所見の書き方等）を中心に研修を行い、負担にならず、短時間でできる内容にします。

月 日(金)	放課後担当者	授業観察
9月 1日(金)	夏休み研修したことの還元 UD（山口）・プログラミング（○○） 読書感想画の描き方（○○）	日時 クラス 教科 ○○ 色んな方の授業 を見に行きます
9月 8日(金)	ジャコット（○○） 指導案審議（○○）・ ALT交流（○○）	○○ 6-2（○○） 社会
9月15日(金)	いじめ防止サミット（○○） 国語（○○）・指導案審議（○○）	○○ 4-3（○○） 算数 3-2（○○） 1-1（○○）
9月22日(金)	4年国語の授業（○○）事前研	○○ 5-1（○○） 総合 ○○ 外国語
9月29日(金)	2年生見学遠足 4年国語の授業（○○）事後研	○○ 4-1 国語 ○○
10月6日(金)	1年生見学遠足 体育発表会準備	○○ 4-1 国語 ○○
10月13日(金)	体育発表会準備	○○ 4-1 国語 ○○
10月20日(金)	体育発表会準備	○○ 4-1 国語 ○○
10月27日(金)	体育発表会準備	○○ 4-1 国語 ○○
11月3日(金)	休日 文化の日	○○ 4-1 国語 ○○
11月10日(金)	指導案の書き方	○○ 5-1（○○） 道徳
11月17日(金)	指導案の書き方	○○ 4-1（○○） 国語
11月24日(金)	4年生見学遠足	○○ 4-1（○○） 国語
12月 1日(金)	期末整理	○○ ○○ 理科
12月 8日(金)	期末整理 3年生見学遠足	○○ 色んな方の授業 を見に行きます
12月15日(金)	期末整理	
12月22日(金)	終業式	

※ U-30 学びたいことがあれば、随時募集中

校内研修の充実が
ベースになっています。

【校内研修・研究内容および方法】

- (1) 全体研2回（算数科1回、道徳科1回）
全体研をしない人は、互見授業
- (2) 今年度も昨年度に引き続き「こざい3策」
を基本として、取り組む
- (3) 研修・研究の時は、研修たてわり班
（若手教育研修を兼ねる視点）
- (4) 互見授業（特別支援学級含む）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級
			研修たてわり班	A		
			研修たてわり班	B		
			研修たてわり班	C		
			研修たてわり班	D		

【小佐井小学校の考える学力とは】

「資質・能力の三つの柱をバランスよく身に付けていること」とする

各分野の研修の担当が、研修を進めるなどリーダーになってもらい、研修の充実を目指しています。

いじめ対応	生徒指導要綱改訂における指導主事招聘	児童理解	学習環境の共有	学力向上プラン作成年2回	算数科こざい3策	巡回相談活用	個々の指導計画	講師招聘
	生活指導・健康安全研修	危機管理・AED		校内研究	全体研年1回・互見授業（6・11月）		特別支援教育	大きな行事の時の児童の様子
				簡易指導案	たてわり班			
	全体研1回	教育課程を参考に日常の生活に結び付ける	生活指導・健康安全研修	校内研究	特別支援教育		体力テスト職員研修	ワクワク事業（1・2年）
	道徳教育研修		道徳教育研修	校内研修	体育・食育研修		体育・食育研修	1校1実践の取組
		人権・同和教育研修	ICT研修・外国語研修	教職員スキルアップ研修・若手教職員研修	食育指導（若手の先生対象）		食育授業（各クラス）	なわとびなどの実技研修
年2～3回（8月・2月）	地域の方を講師による研修	人権委員会につなげて児童へ還元		ロイノートの使用			地域教材研修（旭化成など）	U-30
	人権・同和教育研修		ICT研修・外国語研修				教職員スキルアップ研修・若手教職員研修	明日の授業に生かせる内容
			外国語の授業の仕方					

実践事例の紹介

特別支援教育の充実

通級指導教室の充実

通級による指導を受ける児童の「通常の学級での見取り」の際の連携の工夫

- **Point 1** 児童を見取る視点がきめ細やかに設定でき、明確な点
- **Point 2** 定量的な測定ができ、評価が出せる点
- **Point 3** 根拠となる事実等が記述できるため、事後の話し合いに活用しやすい点

2月9日(金) (4) 時間目 教科: 国語
(5)年(2)組 名前(大分太郎)
評価者(臼杵花子)

目標	評価項目	評価(正の字)				特記事項	評価 (◎△×)	結果 (◎△×)
		よくできた	できた	少しできた まわりの声援で	できなかった			
相手の話を聞きながら会話ができる	①相手の話を最後まで聞く。	正	—			・体の向きをしっかりと相手に向けて聞けていた。	◎	○
	②順番(自分のタンの時)に話す。	下	下			・周りをよく見てちやうど良いタイミングで話せていた。	◎	
	③自分の考えを伝える。		—	下		・あまり伝えずしていなかった。 ・独り言のようにつぶやくことが多かった。	△	
相手の気持ちを考えて行動できる。	①ちくちく言葉を言わない。	IF					◎	○
	②友だちの発表に反応している。	正	—			・何度もうなずいていた。	◎	
	③テンションを上げすぎない。		—	—	IF	・自分の意見が選べなかったことに すねて、今後の活動ができなかった。	×	

評価シートを使用することで、通級による指導を受けた結果、該当児童が通常の学級において、どのような様子で学習しているかを効果的に見取ることができます。



【事例】 臼杵市立臼杵小学校

通級指導教室評価シート(通常の学級で)

月 日 () () 時間目 教科:
()年()組 名前()
評価者()

目標	評価項目	評価(正の字)				特記事項	評価 (◎△×)	結果 (◎△×)
		よくできた	できた	少しできた まわりの声援で	できなかった			
	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							

学級担任用評価シート

担任の先生用評価シート(通常の学級で)

2月12日(火) ~ 2月16日(金)
(5)年(2)組 名前(大分太郎)
評価者(臼杵花子)

目標	評価項目	評価(◎△×)					結果 (◎△×)	
		月	火	水	木	金		
相手の話を聞きながら会話ができる	相手の話を最後まで聞く。	1	×	△	×	△	△	
		2	△		○	△		
		3	○	◎	○	△		△
		4	◎	△	○	×		×
		5		○	○			○
		6	○	×		×		

特記事項

・朝(特に1時間目)先生や友だちの話を聞けないことが多い。

・好きな国語と英語では、比較的自分の言いたいことを我慢して聞くよう様子が見られた。

目標や評価項目を絞っており、毎時間記述する必要がないので、評価者の負担も少ない。

実践事例の紹介

体力向上の推進

【事例】大分市立日岡小学校

体力向上と心身の健康の保持増進

子どもたちの「体調管理」に向けた取組

■ Point 1 就寝及び起床時間、生活習慣の把握に努め、家庭との協働による子どもの体調管理を行う点

■ Point 2 睡眠時間等の数値化 ⇒ 子どもの実態を基にした指導(呼び掛け) ⇒ 欠席児童数の大幅な減少につながっている点



日岡っ子 生活カード 6・7月
()年()組 ()番 名前()

月日(曜日)	夜10時までに寝ましたか、または8時時間以上寝ましたか	60分以上運動しましたか	昼食前、朝食後、歯みがきをしましたか	朝ごはんを食べましたか	元気な時は、具合が悪い時はどうですか	担任確認
6/19(日)	○	○	○	○	めどが痛い	
20(月)						
21(火)						
22(水)						
23(木)						
24(金)						
25(土)						
26(日)						
27(月)						
28(火)						
29(水)						
30(木)						
7/1(金)						
2(土)						
3(日)						
4(月)						
5(火)						
6(水)						
7(木)						
8(金)						
9(土)						
10(日)						
11(月)						
12(火)						
13(水)						
14(木)						
15(金)						
16(土)						
17(日)						
18(月)						
19(火)						
20(水)						
21(木)						
22(金)						

時間等、毎日の生活習慣を視覚化することで、家庭でも意識しやすくなっています。

○×で簡単に記録できるので、習慣化しやすいです。

・寝た時刻と起きた時刻を書きましょう。夜10時までに寝た、もしくは8時間以上寝たら○をつけます。
・運動、朝ごはん・歯みがきは、できたら○をつけます。「○」が15個以上になるようにがんばろう!

夜10時までに寝た、または8時間以上寝た「○」	60分以上運動した「○」	昼食前、朝食後歯みがき「○」	朝食を食べた「○」
○は 日	○は 日	○は 日	○は 日

「校長室だより」による情報発信

令和5年度 日岡小学校校長室だより 令和 5年6月30日 No.3

日岡っ子

ひととつながる おもいやり かんがえ行動する
大分市立日岡小学校 文責 校長 神原 賢一

生活カードの記入ありがとうございます
6月19日から始めた生活カードですが、毎日記入し、提出していただきありがとうございます。できるだけ、提出された全校児童全員のカードに目を通すようにしています。時々付箋でメッセージを書いてお知らせすると、翌日にはそのメッセージにこたえてくれる書き方をしてくれたり、生活時間を見直してくれたりして私にとって楽しい時間となっています。そして、毎日書いていただいているデータは、これから少しずつ皆さんにフィードバックしていきたいと考えています。

睡眠時間 6月19日～23日

学年	睡眠時間
1年生	9:21:36
2年生	9:18:39
3年生	9:11:14
4年生	9:02:23
5年生	9:12:47
6年生	8:43:36
6年生	8:15:18

1週間のデータをお示しします。
8時間以上を目安に睡眠をとるよう子どもたちには呼びかけていますが、左のグラフの通りすべての学年の平均が8時間以上となっています。ご家庭のご協力に感謝します。ただ、高学年になると、日付が変わって寝る子どもが「散見されます。高学年(117人)では1日平均22人の児童が8時間を満たしていないこともわかりました。(※7時間55分の児童もあり、一概にNGとは言えません)
「睡眠時間の確保」、「質の高い睡眠」、「早寝・早起き・朝ごはん」とキャッチフレーズは様々ですが、意図していることは同じで子どもたちが、活力をもって学校生活を送ることで、そこを主眼にそれぞれの立場でできることをやってみましょう。

	遅刻1日平均	欠席1日平均
調査前6月16日まで	6人	15.8人
調査後6月29日まで	5.8人	12.2人

4月当初、遅刻・欠席が多いと感じて、始めたこの取り組みですが、2週間て変化があったのか気になるところです。そこで養護教諭に生活カードの記入前後の数値を出してもらいました。

わずかですが、遅刻する児童は減りました。また、欠席児童数は大きく減りました。これまで「体調不良」という微妙な欠席理由でお休みしていた児童がいましたが、最近「発熱」や「腹痛」など内容がはっきりしてきたことが挙げられます。

学校生活がより良くなるという好循環を生み出しています。